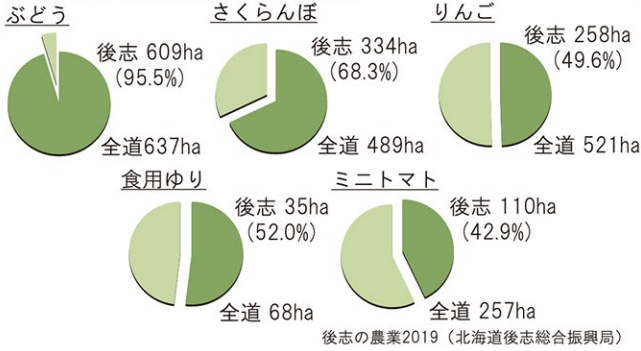
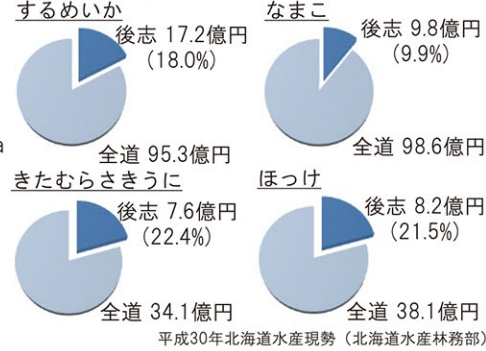


# 北海道に占める後志の割合

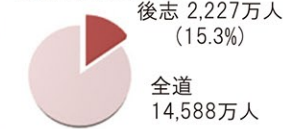
## ●作付面積（振興局別1位の品目）



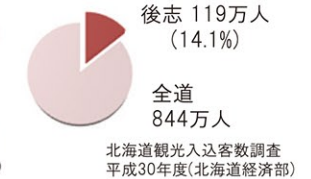
## ●漁業生産高



## ●観光入込客数



## ●訪日外国人宿泊客延数



## ◆管内市町村の概要

全20市町村（1市13町6村）

管内総面積 4,305.87km<sup>2</sup>  
管内総人口 206,480人



●面積：243.83km<sup>2</sup>  
●人口：114,272人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「オタ・オル・ナイ」（砂浜の中の川）から転が。

●概況  
北海道開拓の表玄関として発展してきた商工港湾都市。海と山に囲まれた美しい自然と、港や運河、数多くの歴史的建造物が残る街並みが魅力の観光都市であり、国内外から多くの観光客が訪れている。



●面積：261.34km<sup>2</sup>  
●人口：17,019人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「クツチャニ」（くだのような所を流れる川）から転が。

●概況  
日本有数の豪雪地帯。ニセコ山系に展開する広大な規模のスキー場は、世界から注目されている。農業が盛んで、気温の寒暖差から生まれたジャガイモは、本州で高い評価を得ている。



●面積：437.18km<sup>2</sup>  
●人口：1,433人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「シマコマキ」（背後に岩のある）から転が。

●概況  
自然公園を擁し、日本の滝百選の質老の滝など雄大な自然環境下にあり、温泉活用など観光産業、漁業振興に力を入れている。



●面積：304.92km<sup>2</sup>  
●人口：5,845人  
●市町村名の由来  
共に和やかに和合し、発展しようという合併村の願いを表す。（前田村・小沢村・発定村の合併）

●概況  
役場庁舎やイベント、中核施設「かかし古里館」等「かかし」をテーマにまちづくりを推進。「らいでん」ブランドのスイカ、メロンが知られている。



●面積：95.25km<sup>2</sup>  
●人口：2,942人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「シュベツ」(川の名)から転が。

●概況  
風光明媚な海岸線が美しい漁業のまち。「寿かき」ブランドが知られている。地方自治体として全国で初めて風力発電を設置。近年、漁業体験などをメニューとした観光誘致にも取り組んでいる。



●面積：70.6km<sup>2</sup>  
●人口：12,283人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「イワナイ」（硫黄の流れる沢）から転が。

●概況  
紺碧の日本海とニセコ連峰岩内岳を望み、かつてニシン漁で繁栄した歴史文化を誇る港町。身欠きニシンやタラコなどの水産加工品、深層水、木田金治郎美術館、スキー温泉リゾートなどが魅力です。



●面積：345.65km<sup>2</sup>  
●人口：2,781人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「フル・マツ・ナイ」（和人の女が多くいる沢）から転が。

●概況  
プナ北限の自生林を有する管内一の酪農のまち。町の自然に気軽に親しめる環境づくりをすすめて、都市と農村の交流を目指している。



●面積：82.27km<sup>2</sup>  
●人口：1,611人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「ヘモイトマリ」（マスの寄せる入り江）から転が。

●概況  
北海道初の原子力発電所があり、「漁業と観光とエネルギーの村」を目指している。



●面積：449.78km<sup>2</sup>  
●人口：4,664人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「ランコウシ」（桂の木が多いところ）から転が。

●概況  
清流日本一の尻別川が流れ、良質米「らんごし米」の生産地として有名。湯本、五色、湯の里、昆布、昆布川、黄金、新見の7つの温泉郷に恵まれた美しい景観を誇る米と温泉と花のまち。



●面積：147.79km<sup>2</sup>  
●人口：836人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「カムイナイ」（美しき神秘的な沢）から転が。

●概況  
積丹半島の西岸中央部に位置する漁業のまち。急峻な海岸地形や奇岩怪石など雄大な海岸美や水平線に沈む夕陽は、村が誇る観光資源となっている。世界有数の強塩泉「温泉998」が有名。



●面積：197.13km<sup>2</sup>  
●人口：5,422人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「マツカベツ」(僅のせり立った川)が転が。また、ニセコが観光スキー場として全国ブランドになったため「ニセコ」に改称。(昭和39年10月1日)

●概況  
良質なパウダースノーが舞い降りるニセコ町には多くの観光客が訪れる。また、夏季には冷涼な気候を活かした農業が盛ん。環境モデル都市として資源・エネルギー・経済の循環を目指している。



●面積：238.13km<sup>2</sup>  
●人口：1,972人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「シャク・コタン」又は「サヤコタン」（夏の村、夏場所）から転が。

●概況  
道内唯一の海域公園に指定され、青く透き通る海の色は「積丹ブルー」として知られる。ソーラン節の故郷でもあり、義経伝説にまつわる奇岩、岬の景観は絶景。



●面積：114.25km<sup>2</sup>  
●人口：2,077人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「マツカリベツ」（山の後をとり巻いている川）から転が。

●概況  
羊蹄山の南にあり豊かな伏流水で育まれたじゃがいも、人参、ハープ豚等が有名で、中でも食用ゆり根の生産日本一を誇る。村出身の細川たかさんが観光大使を務め、食による観光振興に取り組んでいる。



●面積：188.36km<sup>2</sup>  
●人口：3,004人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「フィー・ピラ」（赤い産）から転が。

●概況  
道内屈指の魚族の宝庫であり、漁業が基幹産業。漁業と結びついた水産加工業も盛ん。北海道五大民謡の一つ「たつり節」発祥の地。



●面積：119.84km<sup>2</sup>  
●人口：2,071人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「ルスツ」,あるいは「ルー・スツ」(道が山のふもとにある)から転が。

●概況  
周囲を山岳に囲まれた高原大地状の農村。通年型観光リゾートのルスツリゾートが有名。道の駅「230ルスツ」は農産物直売店があり、地域間交流施設として活気を呈している。



●面積：167.96km<sup>2</sup>  
●人口：3,248人  
●市町村名の由来  
本町開拓の功労者、仁木竹吉の姓。

●概況  
「果実とやすらぎの里」でまちづくりを進めている。温暖な気候に恵まれ、様々な果物が楽しめる。道内屈指のフルーツランド。近年ワイン事業も盛んでワイナリーが増えている。



●面積：189.41km<sup>2</sup>  
●人口：2,202人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「キモベツ」（奥の川、山間の川）から転が。

●概況  
後志の玄関口の中山峠は、多くの観光客の「道の駅」として好評である。アスパラガスが名産である。



●面積：140.59km<sup>2</sup>  
●人口：18,527人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「イヨティーン」（へびのように曲がりくねった大きな川のある所）から転が。

●概況  
農業・漁業と共に発展してきたまちで、特に果樹の生産が盛ん。北海道初の「ワイン特区」として認定された「ワインのまち」。また、宇宙飛行士毛利衛さんのふるさとでもある。



●面積：231.49km<sup>2</sup>  
●人口：2,974人  
●市町村名の由来  
本町開拓の先駆者である京極高德氏の姓。

●概況  
羊蹄山の伏流水が湧き出る「水」のまち。湧水が「名水百選」の選定を期にふきだし公園が整備された。「名水の郷」としてまちづくりが進められている。



●面積：280.09km<sup>2</sup>  
●人口：1,297人  
●市町村名の由来  
アイヌ語「フレベツ」（赤い川）の意味したものである。

●概況  
四方を山々に囲まれたカルデラ盆地特有の気候を活かした農業が盛ん。また、パウダースノーを活かしたスキーリゾートが有名。

注) 喜茂別町及び京極町の面積は、境界の一部が未定のため参考値であり、合計面積は420.91km<sup>2</sup>。令和元年10月1日現在在全国都道府県市町村別面積調(国土地理院)。人工は、令和2年1月末現在住基ネットにおける人口【参考値】(北海道総合政策部)。